

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 横田 誠二

- I 開催年月日 平成 30 年 10 月 15 日（月）
- II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 30 分
- III 出席委員等〔出席委員〕◎横田 誠二 ○坂林 永喜 高瀬 充子
角田 悠紀 中村 清志 上田 武
金森 一郎 高畠 義一
（◎…委員長 ○…副委員長）
- 〔議長〕※狩野 安郎議長は委員として出席
- 〔副議長〕福井 直樹副議長
- 〔説明員〕別紙名簿のとおり（遠山病院長は公務のため、寺口多文化共生室長は忌引きのため欠席）
- 〔委員外議員〕瀬川 侑希 林 貴文 高岡 宏和
酒井 善広
- 〔事務局職員〕安東 浩志 松本 武司 柚原 規泰
関本 尚彦
- 〔傍聴者〕3 名

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

〔消防本部〕

- 。平成 30 年秋季火災予防運動実施要領について

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【空き家の防火対策について】

- 重点目標に掲げる「放火火災防止対策の推進」に関連して、危険空き家に対する取り組みや空き家の所有者に対する施錠の徹底は周知しているのか。
- △ 空き家の放火火災防止対策については、夜間の見守りや、家の周りに燃えやすい

ものを置かないことなどの留意事項を防火講習会の機会等をとらえて、自治会や市民の方々に周知している。空き家の施錠については、防犯上の観点であるが、勝手に入って火を点けるという可能性もあることから、自治会等の協力をいただきながら対策に努めている。なお、直接空き家所有者への施錠の指導までは行っていない。

○ 火災予防のために取り組みをお願いしたい。(要望)

△ 空き家対策の関係機関とも連携し、放火火災防止対策の推進に努めたい。

2 その他

。 次回の常任委員会の開催について

11月21日(水)午前10時に開催することが報告された。

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

【高岡市民間保育所連盟からの要望について】

○ 平成30年10月9日付で高岡市民間保育連盟から提出された「平成31年度事業への予算要望書」において、民間保育園に対する運営管理費補助金や職員管理研修費補助金等の削減は、「子育て満足度日本一」を目指す本市の動きと逆行しており、考え直して欲しいとの要望があるが、どのように対応するのか。

△ 要望内容を確認したところ、30年度から段階的に減額し、34年度に廃止する民間保育園に対する市単独補助金を復活させて欲しいという趣旨ではなく、保育環境向上のため、市単独補助金の在り方について今一度考えて欲しいという趣旨であった。

現在、民間保育園に対する市の補助には、運営に関する補助として、給与改善、施設管理、特別保育、職員の管理研修に対する補助がある。このほか、施設整備に係る借入金の元金及び利子に対する補助がある。なお、給与改善や施設管理、職員の管理研修に対する運営に関する補助は、これに見合うものが国からの給付費に含まれていることから、特別保育に対する補助を除き、30年度から段階的に減額し、34年度で廃止する。また、施設整備に係る元金に対する補助については、以前まで国の施設整備補助制度に市負担分が無かったことから始まったものである。現在の国の補助制度では、市も事業費の四分の一を負担することとなっており、加えて、元金に対する補助を行っている状況を鑑み、廃止とする。なお、利子補給は県単独補助を活用して継続する方針である。今後、本市としては、市単独補助という形にこだわらず、民間保育園への支援策を考えていく。

○ 民間保育園は、公立保育園では十分ではない時間外保育や一時預かりなどを実施している。補助金の減額は、民間保育園の運営にマイナスであることに変わりはない。ぜひ、民間保育園の運営を充実させるために補助金を継続し、その他の支援策と併せて取り組むべきと考えるが、見解は。

△ 本市では「子育て満足度日本一」を掲げているが、市単独補助金だけが日本一を目指す取り組みではなく、あらゆる施策を通じて日本一を目指している。毎年、子育てに関する市民アンケートを実施しているが、本市の子育て支援に対する満足度

は徐々に向上している。平成 32 年度から新たに開始する「子ども・子育て支援事業計画（第 2 期）」の策定に向けて、30 年度はニーズ調査に取り組む。同計画では、現在取り組んでいる施策をさらに進化させ、充実に努めたい。

- 満足できる施策の実施をお願いしたい。（要望）

【消防団について】

- 頻発する台風、大雨の影響により、最近では、消防団の待機命令がよく出ている。消防団は、市民の安全のために組織されているが、団員も市民である。中には、深夜 3 時に待機命令が解除され、翌朝の仕事に影響が出たという声もある。自宅待機という選択肢もある中で、分団器具置場に詰めて待機する基準は。
 - △ 暴風警報等の気象警報が発表された強風下では、一旦火災が発生すると広範囲にわたって延焼する可能性が高く、降雨がなかった台風 25 号の際は、火災注意報を発令し、即時に対応できる分団器具置場での待機をお願いした。しかしながら、台風の進路が離れている状態等で、災害が起きる可能性はあるものの被害が急速に拡大する恐れが少ないと判断できる場合は、いつでも駆けつけられる状態での自宅待機をお願いしている。その時の気象状況や災害の発生程度を勘案して判断している。
- 実際に分団器具置場に詰める消防団員の立場になって考えていただければ、より良い分団の活動につながると思うので、ぜひ、消防団員からも意見徴収をお願いしたい。（要望）
 - △ 各分団が警戒に当たる際には、指揮命令系統を確保する必要があるので、階級に応じた人員体制を確保し、活動時間帯のシフトを組んでいただいている。必要に応じ、ご意見をいただきながら、より効率的な消防団活動につなげたい。

【北部保育園の廃止について】

- 現状のスケジュールは。また、見えてきた課題はあるのか。
- △ 平成 32 年度末の廃止に向け、転園に係る希望調査も実施したところであるが、31 年度すぐに転園したいという人は、1 名のみであった。また、混乱も無く、順調に進んでいる。
- 民間保育園の中には、4 つある遊具のうち 1 つしか使用できない保育園があると仄聞している。閉園した後、北部保育園で使用していた不要備品を民間保育園で有効活用すべきと考えるが、見解は。
 - △ 北部保育園の不要備品は、備品が不足している公立保育園で有効活用したい。
- 子どもたちが元気に遊ぶ姿は、地域にとっても活力になる。民間保育園の状況もヒアリングし、北部保育園の不要備品を回してもらいたい。（要望）

〈 当局から次のとおり報告・説明があった。 〉

〔市民生活部〕

- ・平成 30 年度 高岡市二上霊苑墓地使用者の再募集について
- ・平成 30 年度 市民共創フォーラムの開催について

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

【二上霊苑墓地使用者の再募集について】

- 第1種、第2種の区画について、直近の応募実績は。
- △ 第1種は平成26年度、第2種は28年度に申し込み実績があった。
- 第1種及び第2種に応募がない理由は。
- △ 第3種、4種と比較して、使用料、建立費用、維持管理などの負担が大きいこと等が要因と考える。
- そうであるならば、区画を分割するなど、求めやすい方法を検討すべきでは。
- △ 墓地は種別ごとに区画が集まって建立されているため、一部の区画を分割した場合、大きい面積の第1種、第2種の中に、小さな区画が混在することとなる。霊苑内の土地利用については、周辺区画の返還の推移も見ながら、ある程度の面積規模で考える必要がある。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（24名）

市民生活部長	森 田 充 晴	市民病院長	遠 山 一 喜
市民生活部次長 地域安全課長・環境政策室長	笹 島 永 吉	市民病院事務局長	崎 安 宏
共創まちづくり課長	室 谷 智	総務課長	赤 阪 典 子
共創まちづくり課 多文化共生室長	寺 口 昌 代	医事課長	長 田 由 美 子
男女平等・共同参画課長	長 澤 雅 春		
市民課長	山 本 美 由 紀	消防長	寺 口 克 己
環境サービス課長	柴 野 泰 彦	消防本部次長	酒 井 克 志
		総務課長	浦 島 章 浩
福祉保健部長	吉 澤 実	予防課長	山 口 喜 代 治
福祉保健部次長 参事	西 本 幸 夫	警防課長	吉 田 就 彦
社会福祉課長	山 本 真 弘	通信指令課長	有 澤 智 文
子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長	村 上 彰		
高齢介護課長	大 江 菜 穂 子		
保険年金課長	徳 市 直 之		
健康増進課長	上 見 弘 昭		